

10・14総行動

テーマ **#いのちまもる**
医療・社会保障を立て直せ!
 日時▶10月14日(木) 13:00~14:30(集会)
 14:30~(パレード)
 開催形式▶オンライン参加も可
 主催/[いのちまもる医療・社会保障を立て直せ! 10・14行動]実行委員会

私たち民医連は、無差別・平等の医療と福祉の実現をめざす組織です

みやぎ民医連

発行所 宮城県民主医療機関連合会
 仙台市青葉区木町通1-8-18
 〒980-0801 田村ビル5F
 TEL 022-265-2601
 FAX 022-263-8266
 e-mail:dai@miyagi-min.com
 発行人 坂田 匠
 1日・15日 月2回発行 1部50円

北海道・東北地協学習講演会

「いのち最優先の社会へ」

医療・介護の課題と総選挙の意義を学んだ

坂総合クリニック事務局長 高橋 輝美

2021年8月31日、全日本民医連の岸本啓介事務局長を講師に、Webを利用しての北海道・東北地協の学習講演会が開催されました。全体の参加者が約500人で宮城県民医連からは、約40名が各会場、自宅などから参加しました。

岸本事務局長からは、「いのち最優先の社会へ」という演題で講演。まさにコロナ禍にあつて、医療や介護が国の政策によって大きな影響を受け、いのちや人権を守る政治が行われてきたかを強く意識する1年を総括し、次の「たたかい」を考える内容となりました。

全国の取り組みなどを紹介し、このコロナ禍で医療がひっ迫している今、そうだった原因は何



民医連のとりくみ(講演資料より)

まず診る、援助する、何とかする。民医連のとりくみ(講演資料より)。

共同組織拡大強化月間 10月~11月

「いつでも元気」を携えて
地域に足を踏み出そう

宮城県民医連事務局次長 加藤 隆雄

8月24日開催された県連共同組織連絡会で、10月~11月「共同組織拡大強化月間」に取り組みることが決定されました。共同組織は、居場所づくりや健康づくり、憲法や平和を守るとりくみ、地域訪問や相談活動、自治体への働きかけなどを通じて、困難を抱えた人となつながら、要求をつかみ、「安心して住み続けられるまちづくり」の運動と実践を進めています。民医連のあらゆる活動のパートナーです。

県内各共同組織は、コロナ禍のなか活動制限を余儀なくされながらも、事業所と連携し、感染対策を徹底して「助け合い活動」「生活困窮者への食糧支援」「新型コロナワクチン予約困難者への支援や送迎」など、創意工夫した活動を展開して

います。コロナ禍の生活困窮は深刻です。「友の会アンケート」結果は、高齢者だけでなく働き盛り世代の経済苦の広がりや示唆しています。また、「気持ち落ち込むことが増えた」「眠れなくなった」「好きな趣味を我慢している」「運動不足になった」「感染が不安で公共交通機関の利用を控えている」「買い物が困難」「相談するところがない」など、経済苦にとどまらない切実な声が寄せられています。

大崎地域における超巨大風力発電事業への取り組みを進める事業所と共同組織の役割は益々重要で

組みなど、地域住民の健康と地域環境を守る運動の一翼を担いましょう。今年は、衆議院選挙、宮城県知事選挙が実施されます。いのちと暮らし、安全・安心な医療、介護、福祉を実現するためには、それを保障する政治に変える必要があります。意思決定する議会に、私たちの声を受け止めてくれる議員が増えることが大切です。月間の重要課題です。

こうした今こそ「感染対策に留意しながらどんな活動ができるのか」「地域でどんな活動が求められているのか」を、事業所と共同組織が協議し、明らかにして、「いつでも元気」を携えて地域に足を踏み出し、仲間増やしを進めましょう。



「沈黙しない」(講演資料より)

らは厚生福祉会の菊池章郎さんが社保委員会や選挙推進委員会での取り組みの報告をしました。最後に柳谷地協社保委員長が、コロナ禍でたいへんな状況が続いているが、原因を作った政治を変える行動をとっていかうと話し、閉会となりました。

「平和を祈る七夕市民の集い」代表の油谷重雄氏より、8月30日に第46回平和七夕の報告書と写真を受け取りました。色々な人の思いや願いが、折鶴には込められて

第46回

平和七夕のお礼と
報告を受けて

乳銀杏保育園の平和七夕コーナー

いるのだと改めて気付かされました。今年は、コロナ感染拡大で思うように活動ができないうち、来年こそは制限ない取り組みができるようにと思いました。

以下、油谷氏のお礼の手紙の内容を掲載します。

◇ ◇ ◇

仙台七夕まつり8月6日は「ヒロシマ原爆被災の日」です。この日を忘

れないように、原爆の惨禍を繰り返さないように私たちは仙台七夕まつりの会場に「ノーマアヒロシマ・ナガサキ」の竹飾りを44年間飾り続けてきました。

今年の実施決定は7月にずれ込みました。結局規模を縮小して行われましたが、時間的余裕がありませんでした。しかし、昨年の2倍の46会場です「平和七夕」を実現することができました。

今年も、コロナ禍のなか準備段階から皆で「ノーマアヒロシマ・ナガサキ」の思いを共有し活動することができました。そして多くの反響をいただきました。感謝申し上げます。

健康手帳

厚労省の提唱する『地域共生社会』のとりわけ「共生」に強烈な違和感を覚えて久しい。▼先日読んだ書籍でその正体がわかったような気がした。ブレイディみかこの『ぼくはイエローでホワイトで、ちょっとブルー』だ。英国在住の保育士、ライターの著者が英国社会をコミカルかつシニカルに描いている。▼歴史的に階級社会と言われる英国社会だが、階級のみならず移民の増加にと

